

Monkey

モンキー 125

製品説明書



モンキー125

●誕生と歴史

レジャーバイク「モンキー」の成り立ちは「スーパーカブ」のコンパクトで堅牢、扱いやすい特性の小型で高性能な4ストローク50ccエンジンがあって初めて可能となりました。Hondaが1961年に建設したレジャー施設「多摩テック」の遊具に活用する事も視野に入れ1961年に誕生した小さな二輪車「モンキー・オートバイ」に採用されたのが始まりです。

そのレジャー施設は、Honda独自の思想に基づき「人の自由な移動と操る楽しさ」が持つ喜びや感動を通して、人と人が出会い、たがいに学びあうことで生まれる新しい文化や価値を根付かせてゆくことを使命として運営され、その考え方は、現在では鈴鹿サーキットやツインリンクもてぎの施設の中に継承されています。



■「モンキー・オートバイ」
※写真出展:1961年発行Honda社報(当時ヘルメットの着用義務はありませんでした)

「モンキー」は、その後、少数が欧米に輸出され、1967年から日本でも公道用市販車として発売を開始。1974年にはリアサスペンションを装備し、以降モデルチェンジを経ながら日本のお客様を中心に愛され続け、誕生50周年にあたる2017年まで生産されました。

■モンキー(50cc)の歴史



1961 Z100



1963 CZ100



1967 Z50M



2009~2017 Z50J



1978 Z50J-I



1974 Z50J



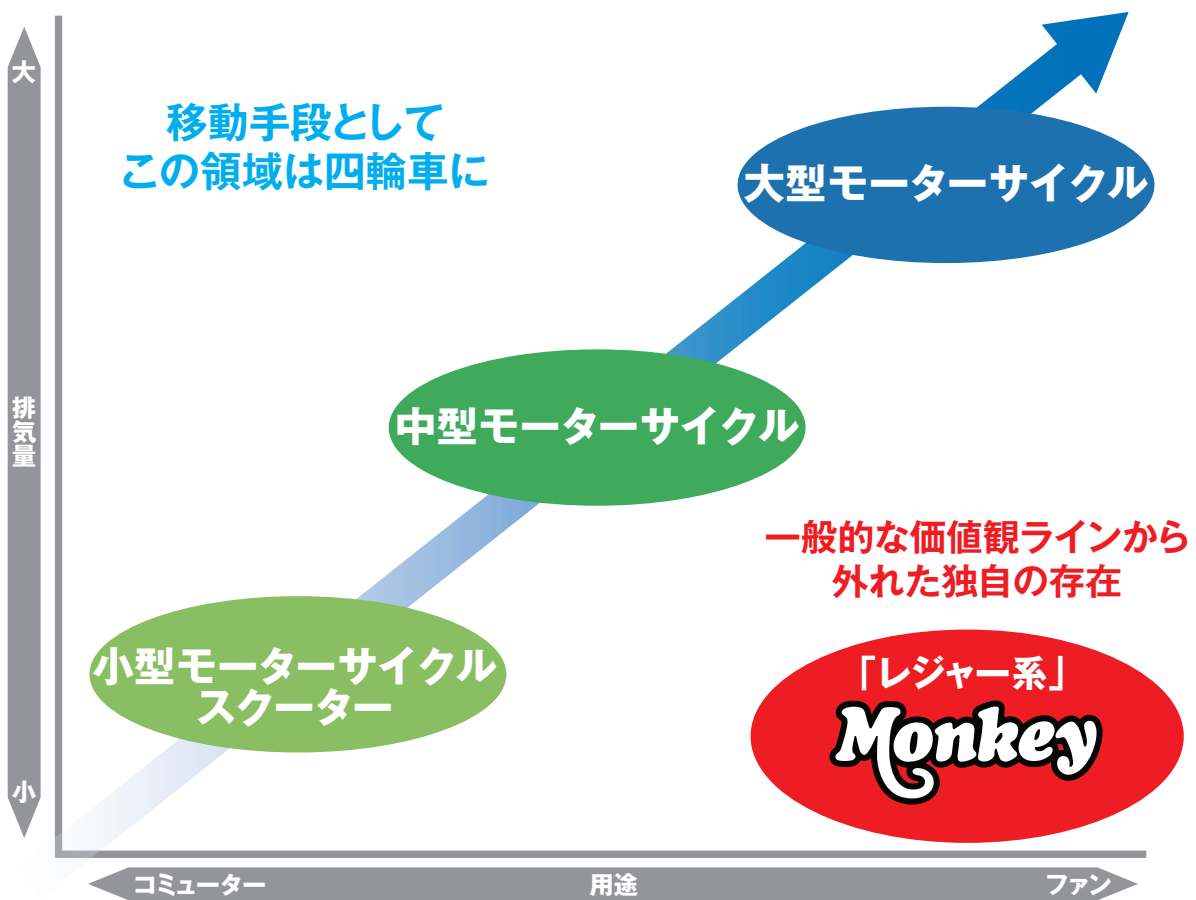
1969 Z50A

● モンキーの価値観

私達は「モンキー」に代表されるカテゴリ「レジャー系」には「Honda二輪が継承すべき大きな価値」があると考え、今回「モンキー」の刷新を図り、新型「モンキー125」として提案します。

一般的に排気量の大きなモーターサイクルほど、その趣味性が高いとされているのに対し「モンキー」は、幅広い層のお客様が親しみやすい排気量と感じていただきながら、同時に高い趣味性を持つという独自のポジションに位置しています。

■「モンキー」のポジショニング



● 「レジャー系」の価値観

「モンキー」を含む「レジャー系」は、お客様自身の個性を発揮いただくための道具として、二輪経験の有無に関わらずモーターサイクルの趣味性の高さ、その楽しみを存分に味わえるカテゴリーです。そしてHondaは常にその市場を牽引してきました。

「レジャー系」の特徴は—

- ・ 乗る人の経験やライディングスキルを過度に問わない、扱いやすい特性と取り回しやすいサイズ感
 - ・ オーナーだけでなく、二輪に乗らない人にも笑顔で振り向いてもらえる親しみやすいデザイン
 - ・ クラッチ、ギアチェンジ、スロットルワーク、ブレーキなど、各操作がより大型のモーターサイクル同様に楽しめる事
- などが挙げられます。

「レジャー系」は、多くのお客様にモーターサイクルの魅力を実体験する機会を提供し「常に時代ごとのお客様と共にある」というHonda二輪の、親しみやすく、若々しいブランドイメージに大きく貢献しています。

そして、その根底にある共通のマインドが「アソビゴコロ」です。そこには、「違い」はあれど「上下の差」などは存在しません。「モンキー」に代表される「レジャー系」の、「お互いの違いを楽しみ合う、親しみやすく奥深い、モーターサイクルという趣味」、この文化こそ「Honda二輪がこれからも受け継ぐべき大きな価値」だと考えています。



■Hondaの「レジャー系」

新型「モンキー125」はタイの二輪開発部門であるホンダ R&D サウスイーストアジアカンパニー・リミテッドで開発、同じくタイのタイホンダマニュファクチャリングカンパニー・リミテッドが生産を担当しています。

「モンキー125」のねらいは

“アソビの達人”

モンキーの楽しさをスケールアップし、アソビゴコロで自分らしさを演出

日本が生み育てたすばらしい二輪文化を、グローバルに拡大したいという想いが込められています。そしてこの文化を継承拡大するレジャーバイクとして開発コンセプトを具現化するべく、外観、走り、装備、全てにわたり開発してきました。

■「モンキー125」の背景と開発のねらい

“レジャー系”

- Honda二輪の、親しみやすく、遊び心にあふれた若々しいイメージに大きく貢献
 - ・乗る人のライディングスキルを過度に問わない、扱いやすい特性と取り回しやすいサイズ感
 - ・オーナーだけでなく、二輪に乗らない人にも笑顔で振り向いてもらえる親しみやすいデザイン
 - ・クラッチ、ギアチェンジ、スロットルワーク、ブレーキなど、各操作系がより大型のモーターサイクル同様に楽しめる
- “アソビゴコロ”: お互いの違いを楽しみ合う、親しみやすく奥深いモーターサイクルという趣味
 - ➡ Honda二輪がこれからも受け継ぐべき大きな価値

モンキー 開発のねらい

“アソビ”の達人

「モンキー」の楽しさをスケールアップし、“アソビゴコロ”で自分らしさを演出
 スタイリング: コンパクトでかわいい「モンキー・スタイル」をブラッシュアップ
 走り: 世界の都市交通環境と調和して「トコトコ走れる」フレンドリーな運動性能/動力性能
 装備: 最新装備に“アソビゴコロ”をプラス

日本で生まれた二輪文化をグローバルに拡大



■モンキー125

スタイリングのねらいは

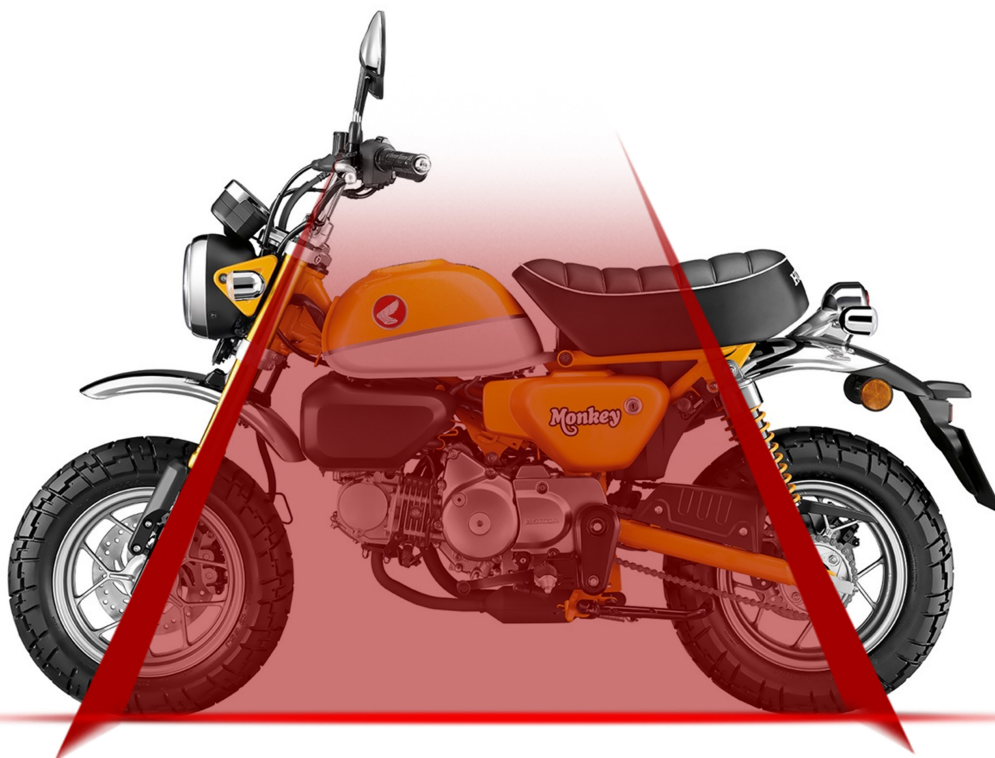
コンパクトでかわいい「モンキー・スタイル」をブラッシュアップ

アソビゴコロにあふれた「モンキー」らしさのエレメントを余すところなく盛り込み、趣味のバイクにふさわしい仕上げを施しました。

●フォーム - 大型バイク同様のパーツ構成によるコンパクトでかわいい姿

前後に短く上下に長く、太い足を踏ん張った、一目で伝わる「モンキー」らしい台形シルエット。このシルエットに対してミラー、メーター、灯火器などをラウンド形状で統一し、さらに全ての外観パーツをシンプルな曲面でまとめることで、さらにかわいらしさを演出しています。ファンバイクは数多くありますが、「かわいい」と言っていただけるのは「モンキー」ならではの特徴です。

また、タンク、シート、サイドカバー、フェンダーなど、各パーツを独立した形状として完成車を構成しました。これにより、コアな「モンキー・ファン」が「アソビゴコロ」を発揮して「自分らしさ」を存分に表現しやすく、どこか一つのパーツをカスタマイズするだけでもその効果は最大限となります。



■モンキー125デザインの特徴

●フィニッシュ — 愛情を注げる高品位な仕上げ

「モンキー125」には、お客様が趣味のバイクとして愛情を注げるよう高品位な仕上げを施しています。

スチール製の前後フェンダーをはじめとする各部のクローム仕上げや、大型バイクと同じポリッシュ工程を経て仕上げた艶やかなタンク塗装、歴史あるプロダクトであることを象徴するオールドタイプのウイングマークを用いた立体エンブレム、新デザインのグリップにいたるまで、仕上げなどにも多くの手間をかけて高い質感を追求しました。

これにより「モンキー125」は、信号待ちで隣にどんな最新の大型バイクが並んでも引け目を感じることなく、お互いの「違い」を楽しめるのです。



■スチール製前後フェンダー



■燃料タンクと立体エンブレム

カラーリングは、倒立フロントフォークのアルマイト色をはじめ、リアサスペンション、フレーム、スイングアームをそれぞれ専用でコーディネートしました。

お客様の選択肢を拡げる主体色を2色展開としながら、いずれもコンパクトな車体の存在感を高めるクッキリした色調を採用する事で、元気な「モンキー」のキャラクターをアピールしています。



■モンキー125 (ABS) (パールネビュラレッド)



■モンキー125 (バナナイエロー)

走りのねらいは

世界の都市交通環境と調和して「トコトコ走れる」フレンドリーな運動性能/動力性能

都市部での使用を中心とした用途で、世界的に普及している125ccクラスの完成車として、ライディングフィールなどの「運動性能」と出力特性などの「動力性能」を作り込みました。

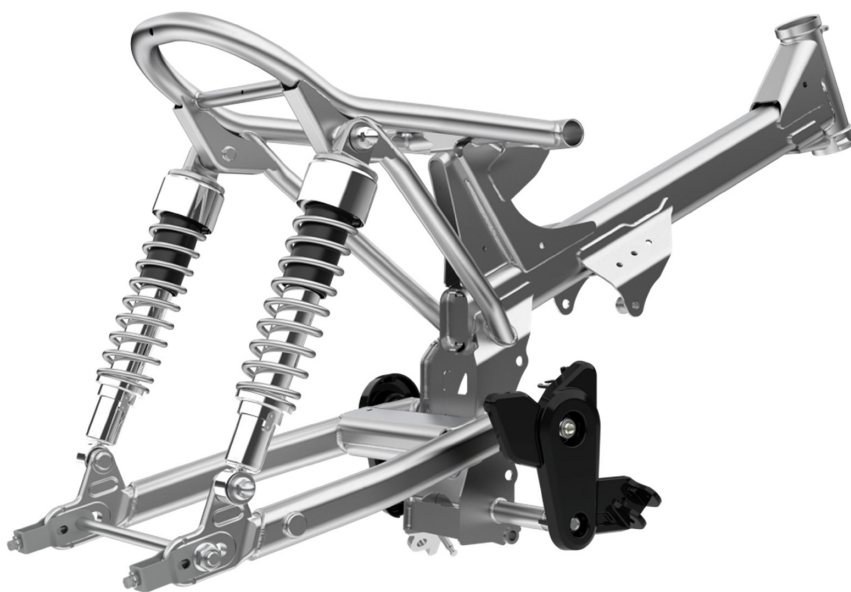
●運動性能

フレームのヘッドパイプ、メインパイプ、エンジンハンガープレートをグロム*と共通とすることで、グロム同等のフレーム剛性、強度を確保しています。また、シートレールは専用設計としています。

スイングアームは、長円形の断面を持たせた専用設計とすることで、縦方向の剛性確保と、デザインの基調であるラウンドシェイプを両立させました。

ホイールベースは、グロムよりも45mm短い1155mmとすることで「モンキー」ならではのシルエットを実現しながらも直進安定性はもとより、コーナリング、悪路、ブレーキングなど各シーンでの操縦性能を確保しています。

※Hondaの125ccスポーツモデル



■フレーム構成CGイメージ

フロント倒立フォークは、車体色とコーディネートされたアルミ切削仕上げ、前後ディスクブレーキやスイングアームの鍛造エンドピースの採用など、大きなパーツからディテールまで、性能と高品位な外観を両立させたパーツを採用することで大型モーターサイクルさながらの仕様としました。

また、動力性能とバランスさせた偏平率80%の12インチタイヤは、エアボリュームを稼ぐとともに「レジャー感」あふれるブロックパターンを採用し「モンキー」らしさに寄与しています。

さらに、外観上でも重要なシートには、70mmのたっぷりとしたクッション厚をとり、長距離走行を想定した大型バイクなどに採用されている、やわらかい座り心地の高密度ウレタンを使用しています。

これらによって実現した快適な乗り心地と、剛性感としなやかさを備えたフレームによる安心の操縦フィールが「モンキー」ならではの「トコトコ走る」楽しさを支えています。

また、フロントのみABS(アンチロック・ブレーキシステム)を装着したタイプを設定しています。



■シート



■フロント回り



■リア回り

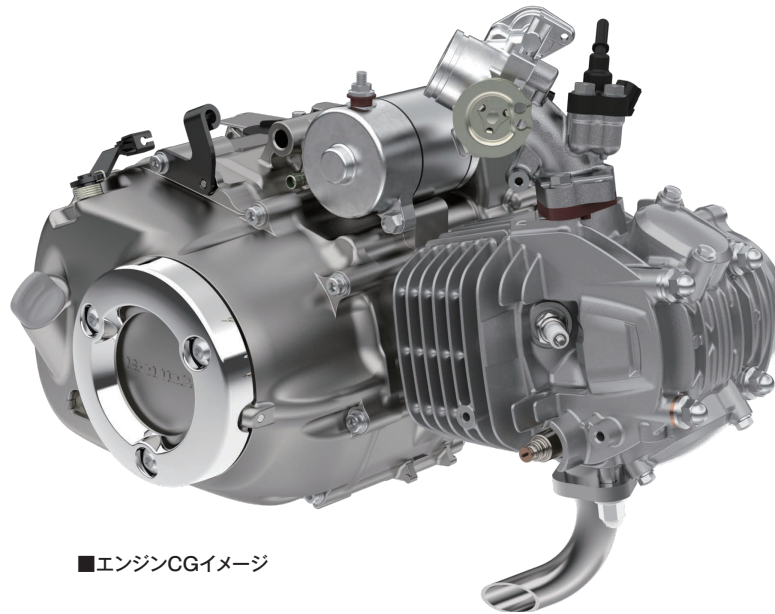


■ABS装着車

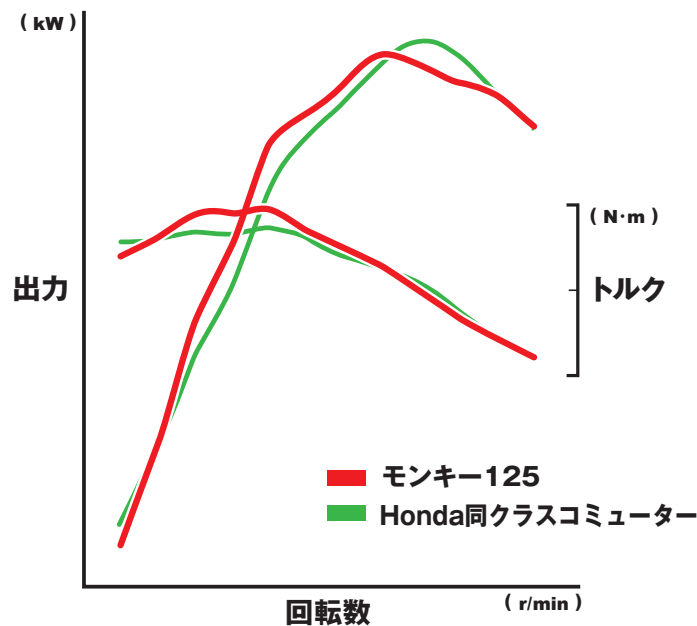
●動力性能

エンジンは、2017年まで生産された歴代モデルの50ccから、世界中の都市でより安心して楽しく走れるよう、125ccにスケールアップ。グロムの4速マニュアルトランスミッションのエンジンをベースとして、クランクケースカバーなどの外観を専用化、「モンキー」ならではの走りのキャラクターとのマッチングを図っています。

出力特性は「トコトコ走れるフレンドリーさ」を持ちながら、趣味のバイクとしての楽しさを表現。市街地で多用する4500～6000回転付近のパワー、トルクを厚くし、ゴー/ストップを繰り返す市街地での速度域における力強さを楽しめるパワーフィールとしました。「モンキー125」のかわいらしい外観を成立させながら、この出力特性を獲得するために、専用のエアクリーナー、コネクティングチューブ、マフラーなどを採用し、それぞれの容量や長さ太さのチューニングに、FIセッティングなどを加えてこれを実現しています。



■エンジンCGイメージ



■出力特性比較イメージ図

装備のねらいは

最新装備に“アソビゴコロ”をプラス

現代のファンバイクとして従来の「モンキー」のクラシカルな印象を継承しつつ、先進装備による刷新を図りました。

灯火器はウインカーも含めて全てをLED化し、耐久性向上と省電力化を実現しています。

キーには、オールドタイプのウイングマークをアクセントに施したウェーブキーを採用し、より上質感を演出すると共に、盗難抑止効果を向上させました。

メーターにはLCDタイプを採用し、イグニッションON操作でウインクするアニメーションを採用するなど、最新装備ならではの新しいアソビゴコロを表現しました。



■LED灯火器（ヘッドライト、フロントウインカー）



■LED灯火器（テールランプ、リアウインカー）



■メーター回り



■ウェーブキー

主要諸元

モンキー125 主要諸元

モンキー125【 】内はABS仕様

車名・型式	ホンダ・2BJ-JB02	
全長(mm)	1,710	
全幅(mm)	755	
全高(mm)	1,030	
軸距(mm)	1,155	
最低地上高(mm)*	160	
シート高(mm)*	775	
車両重量(kg)	105【107】	
乗車定員(人)	1	
燃料消費率*1 (km/L)	国土交通省届出値:定地燃費値*2(km/h)	71.0(60)〈1名乗車時〉
	WMTCモード値*(クラス)*3	67.1(クラス1)〈1名乗車時〉
最小回転半径(m)	1.9	
エンジン型式	JB02E	
エンジン種類	空冷4ストロークOHC単気筒	
総排気量(cm ³)	124	
内径×行程(mm)	52.4×57.9	
圧縮比*	9.3	
最高出力(kW[PS]/rpm)	6.9[9.4]/7,000	
最大トルク(N・m[kgf・m]/rpm)	11[1.1]/5,250	
燃料供給装置形式	電子式〈電子制御燃料噴射装置(PGM-FI)〉	
始動方式*	セルフ式	
点火装置形式*	フルトランジスタ式バッテリー点火	
潤滑方式*	圧送飛沫併用式	
燃料タンク容量(L)	5.6	
クラッチ形式*	湿式多板コイルスプリング式	
変速機形式	常時噛合式4段リターン	
変速比	1速	2.500
	2速	1.550
	3速	1.150
	4速	0.923
減速比(1次*/2次)	3.350/2.266	
キャスト角(度)*	25°00'	
トレール量(mm)*	82	
タイヤ	前	120/80-12 65J
	後	130/80-12 69J
ブレーキ形式	前	油圧式ディスク
	後	油圧式ディスク
懸架方式	前	テレスコピック式(倒立サス)
	後	スイングアーム式
フレーム形式	バックボーン	

■道路運送車両法による型式認定申請書数値(★の項目はHonda公表諸元) ■製造事業者/Thai Honda Manufacturing Co., Ltd.
 ■製造国/タイ ■輸入事業者/本田技研工業株式会社

- *1.燃料消費率は、定められた試験条件のもとでの値です。お客様の使用環境(気象、渋滞等)や運転方法、車両状態(装備、仕様)や整備状態などの諸条件により異なります。
 *2.定地燃費値は、車速一定で走行した実測にもとづいた燃料消費率です。
 *3. WMTCモード値は、発進、加速、停止などを含んだ国際基準となっている走行モードで測定された排出ガス試験結果にもとづいた計算値です。走行モードのクラスは排気量と最高速度によって分類されます。

燃料消費率の表示について

WMTCモード測定法で排出ガス試験を行い型式申請した機種は従来の「定地燃費値」に加え、「WMTCモード値」を記載しています。エンジンや排出ガス浄化システムなどが同じシリーズ機種においては、定地燃費値が異なってもWMTCモード値が同一の場合があります。これは、型式申請時の排出ガス試験においては、排出ガス中の規制物質の排出量が多量に多い機種により試験を行い届け出をしており、この試験結果にもとづきWMTCモード値を計算し、シリーズ機種それぞれのWMTCモード値としているためです。

WMTCモード値については、日本自動車工業会ホームページ(<http://www.jama.or.jp/motorcycle/>)もご参照ください。

※本仕様は予告なく変更する場合があります。 ※写真は印刷のため、実際の色と多少異なる場合があります。

※モンキー、PGM-FIは本田技研工業株式会社の登録商標です。